

出張所の窓辺から

NO.48



淀川管内に7つある、国土交通省淀川河川事務所の出張所から職員が管内のみどころを紹介し、今回の担当は枚方出張所です。

今回は枚方出張所からお届けします。枚方出張所は、守口市域、寝屋川市域、枚方市域における淀川の堤防や河川敷等を管理しています。

管内には17地区の淀川河川公園がありますが、これらは日本で最初の国営の河川公園であり、都市では希少となった自然に親しめる空間で淀川の自然環境や淀川と人との関わりを次世代に伝えられる公園づくりを目指しています。

その中で、寝屋川市域の淀川本川の中流左岸にある、淀川河川公園点野草地区とそこに隣接する低水敷周辺のエリアの整備に関して、ご紹介します。

公園整備計画で定められた、水辺環境の再生のための高水敷の切り下げや周辺整備方針をすすめるにあたって「みんなで育てる河川公園モデル地区」と選定し、河川レンジャーが住民と行政の橋渡し役となってワークショップを重ね、国営公園事業と河川事業との連携事業として進めてきました。

今回の公園事業により、これまでにこの護岸ブロックを撤去して、高水敷をなめらかなスロープ形状とし、園路広場整備として園路舗装を行い、また施設整備として水飲み場や自転車止め、ベンチを設置しました。今後は、河川事業として低水敷部を掘削して、ワンドの形状を整備する予定です。



現在、点野草地区の前に広がる砂州部分では住民参加による川づくりに向けて、河川レンジャーが地域住民等と連携して、河川環境上の課題となっている外来植物の駆除や清掃を行い、良好な自然環境を保全する活動を行っています。また、年に一度、夏場には、Eボート・サップ・カヌー体験やヨシ笛づくり体験などの住民参加活動も行われています。このように、河川と地域の日常的な関わりや大切さを学ぶことで今後の川づくり・人づくりへの発信を行っています。

民参加活動も行われています。このように、河川と地域の日常的な関わりや大切さを学ぶことで今後の川づくり・人づくりへの発信を行っています。

川と人、人と人を結ぶ
河川レンジャー 淀川管内
 RIVER RANGER
NEWS

no. **60**
 令和4年10月発行
秋号

水害の備えについて 考えよう!

表紙撮影地:
淀川陸間 (大阪市福島区)
 淀川下流部の一部では、橋梁の高さが堤防より低く、高潮等による越水を防ぐため防潮鉄扉(陸間)が設置されています。台風期に備え、近隣の道路を通行止めにし、防潮鉄扉の閉鎖訓練が行われています。

ゲンジホタル (Genji Hotaru)

いきものイチオシ!! 第31回

大阪と京都の中間に位置する高槻市の南北に流れる芥川は淀川に注ぎ、市北部は北摂連山からなる山間部が占めており自然いっぱいの街です。夏がくる前によく聞かれるのが「蛍見た?」高槻では5月下旬~7月上旬にかけてホタルをみつけることができます。芥川上流ではゲンジホタル、芥川中流の津之江公園付近ではヒメホタルを見つけることができます。

ゲンジホタルは、川岸の木や石に生えたコケの中に産卵し、幼虫期には川の中で水底に砂や礫(砂より大きい粒子)があるところに棲んでいます。落ち葉などが積もる流れが緩やかな所に育つカワニナをエサとしています。そして、上陸し、土の中に繭を作

て蛹になります。柔らかい土の護岸であることもホタルの生息する条件になってきます。

やがて成虫になって、ホタルが見られるのは、6月頃のほんの2~3週間ですが、年間を通して幼虫が育つ条件が整っている川が高槻にはまだ多く残されているということなのでしょう。

来年の夏、夏の始まりを感じに芥川に足を運ばれてはいかがでしょうか?
 (ホタル観賞には付近住民の方へのご配慮をお願いします。なお、高槻市では条例でホタルの捕獲が禁止されていますのでご注意ください)

高槻出張所管内河川レンジャー 杉本 真一

発光しながら飛び交うゲンジホタル

カワニナ

写真提供:カワニナ、ゲンジホタル/河合典彦氏、カワニナ生息状況/東親志氏、ホタル飛翔/高槻市観光協会

国土交通省のサイト「川の防災情報」では、全国の河川の雨量・水位情報をチェックできます。川遊び中にお天気の変化が気になったときには、ぜひご活用ください。

河川レンジャーは淀川流域を舞台に行政と流域住民をつなぐ橋渡し役を担っています。詳しくはホームページをご覧ください。

発行責任者: **淀川管内河川レンジャー事務局**
 〒573-0056 大阪府枚方市桜町3-32 TEL:072-861-6801(平日9時~17時)

次号は1月発行予定です!

公式LINE 始めました

淀川管内河川レンジャー 検索 <https://www.river-ranger.jp>

※本誌掲載記事、写真、イラストの無断転載を禁じます。

<https://www.river.go.jp>



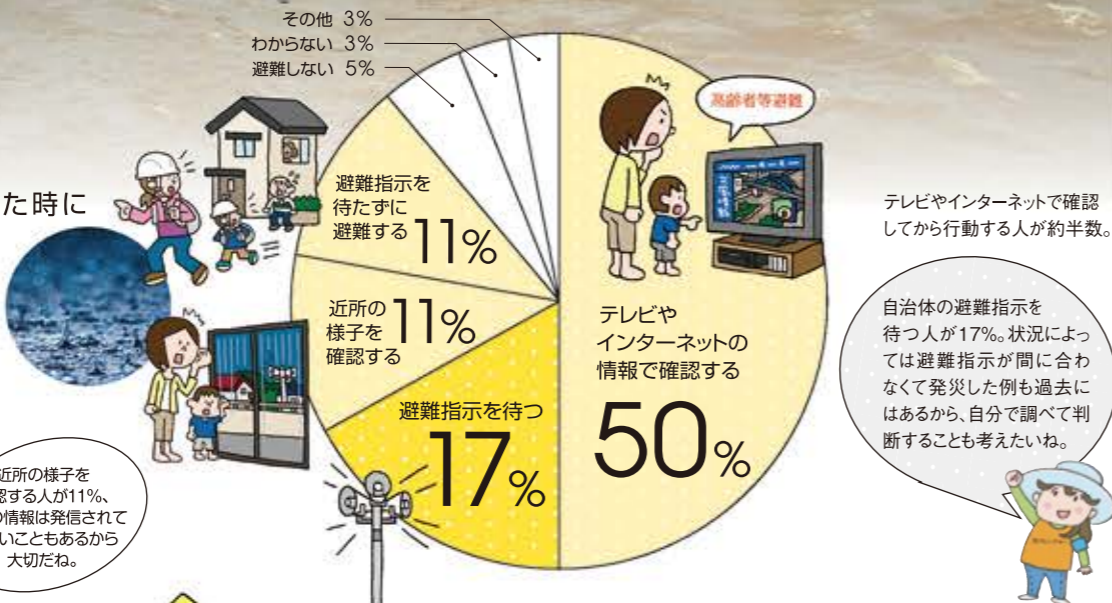
近年、記録的な豪雨による災害が各地で発生しています。

「台風が接近しても、ウチの地域は今まで避難しなくても大丈夫だったから・・・」
そんな過信はありませんか？正しく状況を判断して、避難行動をとれるようにしたいですね。
水害への備えについて一緒に考えましょう。

水害の備えについて考えよう！

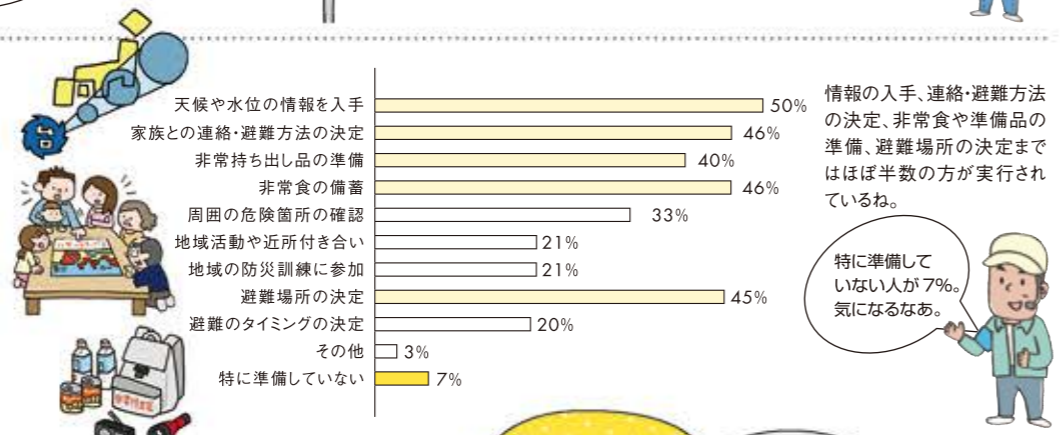
Question ①

自治体から
避難情報が出た時に
最初はどう
行動しますか



Question ②

水害時に
備えて日頃から
行っていることを
教えてください。
(複数回答)



Question ③

水害時の行動で
不安に思うことや
知りたいことが
あれば教えてください。

自治体の情報はどのように取りにいくのか知りたいです。

避難場所の込み具合の情報など水害時に公開されるのでしょうか。

マンションの高層階に居住している場合の判断がわからない

ハザードマップでは自宅の危険はわかるが、経路の安全を確認することは難しい

多くの不安や疑問を持っていらっしゃる事がわかりました。平常時に調べられることや自治体で発行されているハザードマップに記載されている内容もあります。河川レンジャーの出前講座では、身を守るための情報をお伝えしています。

個人の防災行動計画

マイ・タイムラインを作っておきませんか

家族構成やご自宅の建物や場所など、同じ町に住んでいても避難行動は変わってきます。ご自身に合わせて避難プランを立ててください。淀川管内河川レンジャーは、地域でマイ・タイムライン作成のお手伝いをしています。



淀川管内河川レンジャーの活動の最新情報は、ホームページをご覧ください。



木津川「水」巡り

西から流れてくる木津川が大きく北向きに転じる付近の南岸部は、現在の木津川市にあたり、1000年前頃の古代には泉木津と呼ばれていたそうです。

木津川市加茂町の右岸側にある大井手水路は、鎌倉時代中期に海住山寺第二世慈心上人が和東郷石寺の和東川に水源を求め、川に井手枕という堰堤を設け、そこから数十年の歳月をかけ、幅1.81m、勾配1250分の1、水深0.3m、延長6,755mの水路を村人とともに完成させたと伝えられています。奈良時代に恭仁京が造営された瓶原郷の農業用水不足を救うために造られた由緒ある水路です。

また木津川左岸の木津川市鹿背山口には、奈良市が大正4年から取水口と浄水場の建設を開始し、奈良坂経由の送水管を布設し、7年後の大正11年に給水を開始した奈良市木津浄水場があります。

利水の史跡にご紹介してきましたが、近年は局地集中豪雨の頻度が以前より高くなっており、防災減災施設に人々の関心が向けられています。

加茂町内の木津川左岸堤防1.5km間には、高山ダムの放流警報所・加茂水位流量観測所・渦之樋



大井手水路

写真提供：木津川市観光商工課



樋門・渦之樋排水機場・赤田川樋門・赤田川水門が集中しています。
この中で赤田川水門は、平成30年に新河道及



赤田川水門

び水門が完成しています。この河川改修によって、流下能力(川が流すことのできる洪水の規模のこと)が大幅に増え、浸水被害の軽減が期待されています。
皆さんは、水門と樋門、排水機場の違いについてご存じですか？
この木津川エリアでは、川の施設を効率よく見学でき、その役割や働き、違いを一度に知ることが出来ます。地域の河川管理施設を見ながら防災について考えるレンジャー活動を行っています。今まで気にとまらなかったかもしれない川の管理施設、一度、一緒に見てみませんか？

地域連携で取り組む「わがまち防災スクール」



土のう作り

車いす搬送

マイ・タイムライン作成

私が河川レンジャーとして防災に取り組んだのは、「自分の命は自らが守る」わがまち防災スクールからです。平成17年、淀川下流域の中学校の野球部員等のおおよそ50人から始まりました。

まず、自分が住むまちの地形を「知る・見る・考える」をコンセプトに土嚮づくりを学び、消防署署員から可搬式ポンプの操作活動等を学び、行政と河川レンジャーが協働しつつ、事業を進めました。生徒は初めての体験に戸惑いを見せながらも、真剣に取り組む姿を見て次世代の担い手の誕生と、大いに喜び、力強さを感じました。

所、安全な道を見つけ、紙の上書き込む図上訓練。3日間の授業で、国土交通省淀川河川事務所・区役所・地域の事業所、更にボランティアがそれぞれの立場で「自助」「共助」「公助」について伝授しています。

一方、生徒たちは、地域ごとのグループ学習でセッションも高く、雑談で話が弾むことも多々ありますが、これもコミュニケーションの一つで、近年希薄になっている社会だからこそ、災害時に大きなネットワーク力として役立つと考えています。

3年後の平成20年、「わがまち防災スクール」は「自然災害を考える」をテーマに、1年生の総合学習としてスタート。内容は3部制で、1部は「災害のメカニズムと自らが果たす役割」自助について座学で学び、2部は災害時の危機管理の啓蒙と知識・技術の習得として、土嚮づくりをはじめ、救急体験等の実習を行いました。総括の3部では減災に繋げるために、まちの危険な

平成30年、淀川河川事務所より防災教育モデル校に指定されたことを機に、ボランティアが事前学習を行って進める町歩きやマイ・タイムラインづくりを導入するなど、令和4年となった現在も常に新しい学びを模索しています。

私自身、体験した「室戸台風」を語り伝えています。が、学生もこれらの体験を通して自らの命を守る「語り部」となってくれることにあわせ、この防災スクールが人と人を繋ぐ人づくり、ひいては「流域治水プロジェクト」の一翼を担う授業となれば幸いです。



救助者搬送

流域治水 × 河川レンジャー



「流域治水」とは、水災害の激甚化・頻発化等を踏まえ、流域に関わるあらゆる関係者が協働して水災害対策を行う考え方です。



河川レンジャーアドバイザー 辻川松子

*1.イラスト出典：国土交通省関東地方整備局ホームページ(https://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000824905.pdf)